視点

親自身が自分の幸せを追求することの大切さ

オフィスカワムラ代表　**河　村　　都**

私は現在、子育てを頑張っているお父さんお母さんにエールを送る講演、先生方への研修を主な仕事としていますが、その他に「ママズトーク」を開催しています。１０人から１５人くらいのお母さんが私に子育ての悩みを思いっきり話します。私が答えることによってお母さんの肩の荷を軽くすることが目的です。子育てにイライラし自分の感情のコントロールが出来ないのが全てのお母さんの悩み№１です。同時に誰かに「大変だね」「頑張っているね」と声を掛けられることがないこともイライラを増長させているように思います。また、我が子を他の子と比べて「あれが出来ない」「これが遅い」と頭を抱えています。幼稚園児の年齢の子どもに対して「将来、好きなことが見つけられるのか？自立ができるか？」まで心配しているのです。

以前、京都の嵯峨野で素晴らしい竹林の中を歩いた時、私に教えてくれた方がいました。「これだけの沢山の竹ですが、育ち方はバラバラなんですよ、すぐ伸びる竹もあればゆっくりのんびり伸びていく竹もある。でも最後はこのように同じ背丈になるんですよ」と。この話を例にして「どこかでお隣のお子さんと一緒になるから比べたりしないでゆったりと子育てしましょう。育つスピードはそれぞれ違うのですよ」とお母さんに話すと少しほっとしたお顔になります。お話ししながらお母さん方の気持ちが少し落ち着いてきたら「子どものことばかりではなく、お母さんがどうしたら幸せになるかも考えてね」と話します。親自身が自分の人生をイキイキと幸せに生きていること。その背中を見て子どもは自分の人生を選択していくことを伝えます。親が幸せな人生を目指すためには、親自身が夢や目標を持つようにしなければなりません。それが子どもに対する大きな自立への教育だと私は考えています。

先日、「幸福学」を研究されている慶応義塾大学大学院教授の前野隆司先生と「子の幸せキャリアの近道」と言う内容で、ある雑誌の対談をさせていただきました。その時に「親が自分の幸せを追求することが子どものキャリアへの最高の指南になる」というところで意見が一致し、私も大変心強く思いました。

その際に家族で「幸せカルタ」を作ってカルタ取りをする楽しさも教えて下さいました。こうなったらきっと幸せ・というカルタを大人も子どもも作ってみるのです。そこで私も早速に作ってみました。

「あ‥ありがとう、自分自身にありがとう」「い‥い～じゃない、多少ハメをはずしても」「う・・噂はするよりされるほうがいい」「え・・笑顔なら天下一品、私の自慢」「お・・お金は人のために使わないとただの紙」以下「ん」まで作ってみました。作っている時から幸せ気分になるから不思議です。

ママズトークでもこのお話を伝えてみると早速作った方がいて「少しだけ子どもに対する見方が変わってきた」とか「自分の日常にある小さな‘幸せ’を見逃していた」というお母さんの声を聞き私も嬉しくなりました。

子どもと一緒に考えたら本当に楽しいと思います。「お‥おかあさん、怒る顔より笑顔がすてき！」なんていうカルタが子どもから湧き出てくるかと。

子育て中のお母さんに、少しだけ角度を変えた考え方を提案しながら、少しでもお母さんが自身の幸せを見つめ、子どもに対して「幅の広い、ゆったりとした受け止め方」ができるよう、それを願いながら明日も又、お母さんたちに「幸せになること」を伝えていきたいと思います。

河村建夫会長を再選
平成２９年度事業計画・収支予算などを決議

７月 11 日、東京・私学会館において全日本私立幼稚園ＰＴＡ連合会の平成 29 年度委員総会が開催され、委員７１人が出席しました。

岡澤邦幸・全日私幼Ｐ連副会長の開会のあいさつに続いて、河村建夫・全日私幼Ｐ連会長、遠藤利明・全日私幼Ｐ連副会長、山本順三・全日私幼Ｐ連副会長、香川敬・全日私幼連会長よりごあいさつをいただきました。

その後、議長に岡澤邦幸・全日私幼Ｐ連副会長を選出し議事に入りました。

議事では、議題①役員改選の件　②平成 28 年度事業報告・収支決算の件　③会務監査報告　④平成２９年度分担金の件　⑤平成 29 年度事業計画案・収支予算案の件　⑥第 32 回 PTA 大会の件　について執行部から詳細な提案があり、満場一致で議決されました。

議題①役員改選の件では、会長に河村建夫氏（山口県）、最高顧問に森喜朗氏（石川県）の再選が満場一致で議決されました。副会長には遠藤利明氏（山形県）、山本順三氏（愛媛県）、小田祐司氏（北海道）、金重光江氏（埼玉県）、月本喜久氏（東京都）、山本英之氏（滋賀県）、末広尚希氏（沖縄県）が選任され、監事には坂本洋氏（岩手県）、宮地彌典氏（高知県）が選任され、満場一致で議決されました。

最後に金重光江・全日私幼Ｐ連副会長の閉会のあいさつがあり、本総会を終了しました。

チャイルドブックの月刊保育雑誌

Pot ポット

価格　本体 1,000 円＋税

好評発売中！

チャイルド本社

保育に役立つ
アイデア満載！

行事　遊び
食育　0・1・2歳児

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 03-3813-2141　FAX 03-3814-3392
http://www.childbook.co.jp/pot/

平成 29 年度　認定こども園特別研修会開催

7 月 3 日、東京・私学会館において、「認定こども園特別研修会～認定こども園制度の理解を深める～」が開かれ、全国から約 250 名の先生方が参加しました。はじめに、村山十五全日私幼連副会長より開会のあいさつがありました。

研修会の概要は下記のとおりです。

研修①：「幼稚園・認定こども園を取り巻く現状について」
文部科学省初等中等教育局幼児教育課長　　先﨑卓歩氏
研修②：「私立幼稚園の選択肢」
株式会社船井総合研究所　　島崎卓也氏
研修③：パネルディスカッション「認定こども園委員会委員による移行実例」
認定こども園委員会副委員長　　森迫建博
認定こども園委員会委員　　角谷正雄
アドバイザー

株式会社船井総合研究所　　島崎卓也氏
コーディネーター
認定こども園委員会委員長　　橋本幸雄

また 11 月に認定こども園全国研修会の開催を予定しております。詳細は決まり次第ご報告いたします。

(株)学研教育みらい　東京都品川区西五反田２－１１－８ 幼児教育事業部
お問い合わせは フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス

らくらくメ～ル
園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホで
らくらくバスメ～ル
スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

ぜ～んぶ学研に おまかせ!!

らくらくホームページ
目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にもシステム併用でご対応いたします。

発達保育実践政策学センター（Cedep）公開シンポジウム①

私幼時報では、平成29年9月号から平成30年3月号の7回にわたり、平成29年3月12日に開催された2016年度・発達保育実践政策学センター（Cedep）公開シンポジウム「乳幼児期からの縦断研究：幸せな人生のために何が必要か」の内容を報告します。はじめの3回は、ロンドン大学のイングリッド＝ショーン博士の講演についての報告を掲載する予定です。なおこの報告は便宜上一人称で書きますが、全て引用という訳ではなく、一部平林祥先生（大阪・ひかり幼稚園）が加筆・修正をしておりますことをご了承ください。

イギリス・ロンドン大学　イングリッド＝ショーン博士／講演概要

人生初期のスキルがその後の成果にもたらす影響

【今日の講演の概要】

今日は以下の４つのことをお話しできればと思います。１つ目は、幼児期の社会的・情緒的・認知的スキルの中で、将来の成果（アウトカム）にとって何が重要なのか、ということ。そして、実施された縦断研究のエビデンスを用いた話の中で、２つ目は、出生から６歳までに測定された初期の社会的・情緒的・認知的なスキルに焦点を合わせて話します。その期間に測定されていないスキルについては、７歳から10歳までの測定結果を用いて話します。３つ目は、乳幼児期に獲得したスキルが、成人してからの様々なアウトカム、例えば学歴や雇用、健康状態（病歴や肥満など）、ウェルビーイング等とどのように関連しているかについて話します。４つ目に、長期縦断追跡調査で得られた社会的・情緒的・認知的なスキルなどのエビデンスにさまざまな影響を及ぼし得る、個々の社会的背景や出生時の生理学的状態、乳幼児期の認知能力、性別など諸要素を統制（条件を揃えた）した上で、その結果について話します。

【どのようなスキルがあり、どれが大切か】

「どういったスキルが、子どものウェルビーイングや社会的発達を促すのか？」という疑問に対して、OECDは2015年に発表した報告書で、「重要なのは、単に認知的スキルだけでなく、社会的スキルや情動的スキルも含めてバランスのとれた『全人的な子ども』を育てていくことだ」と結論を出しています。

そのためには、一つ一つの領域をバラバラに見ていくのではなく、様々に関連する領域に対して総合的なアプローチをとることになります。子どもたちが持つ社会情緒的な側面や認知的側面だけではなく、創造的な側面、芸術的な側面も相互関連的に捉える必要があります。

もう一つ、OECDの研究で強調されたことは、世界中で共通して見られる【汎用的スキル】と、【文化固有のスキル】の両方に焦点を合わせることです。それぞれの国には、固有の文化的な要請があるからです。

また、それらの多様な汎用的スキルと文化固有のスキルについて議論をするためには、一つひとつの具体的なスキルと、それを可能にするより高次のコンピテンス（能力）との関係を整理し、より多くの人が理解できるように統合的な体系を作ることも大切です。

ここで常に意識しておかなければいけないのは、こういったスキルは人生の初期に獲得され、その発達は将来に渡って続くということです。スキルの獲得と発達は、生まれてから生きていく限りずっと続いていくということです。そして、それが全て将来のアウトカムに関わります。

【スキルの花】

右図は「スキルの花」とでも言うべきもので、様々な研究を通して明らかになってきた重要なスキルをまとめたものです。

中央にあるのは【学び】です。学びには、**学びのプロセス**と、**学ばれる知識**とがあります。学びのプロセスには、例えば、記憶・応用・理解・省察・分析・評価・創造といった要素があります。学ばれる知識とは、事実に関する知識や概念的な知識など、それぞれの領域（科目で言えば数学や歴史など）に固有の知識を獲得していくことを指します。

左上には【身体的スキル】があります。私たちが子どもの発達を考える上で、身体の重要性を忘れてはいけません。身体的スキルには、**運動スキル・運動感覚スキル・視覚スキル・器用さ**があります。

【認知スキル】も重要になります。幼児期には**言語スキル**の著しい発達が見られますが、**非言語スキル**も重要です。非言語スキルには、概念を理解すること、言語に頼らず基本的な理解を形成できることなどがあります。また、自分の持っている知識を使って情報を分析する**実行機能**や、自分が何を知っているのかを理解する**メタ認知**というスキルも認知スキルに含まれます。

次に【個人的スキル】があります。自分の感情や行動を、衝動にとらわれずにコントロールする**自己制御**。自分の強みや弱み、コンピテンスを理解する**自己認識**。自らを**動機付け**て行動する能力。何が正しくて、何が間違っているのかを理解する**価値観**。自分の目標を達成するために必要な計画を立てる**プラニング**というスキルなどがあります。

次に【社会的なスキル】があります。一定の状況下で他者がどのような気持ちになっているのか、他者の視点に立って考えることができる**他者視点取得**。相手を理解した上で、どのように関わっていくかを理解する能力である**アプローチ**などがあります。

次に【情緒的スキル】が挙げられます。何らかの感情（例えば怒り）が自分の心の中に浮かび上がったときに、それを必ずしも顔に出すことをせず、コントロールできる**情緒安定性**。自分が重要だと感じたものを積極的に探求していく**熱心さ**などが含まれ

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とカリキュラム

毎月２日 発売

ひかりのくに株式会社
本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

ます。

左下には【芸術的スキル】が置かれています。子どもはクリエーターであり、モノを作り出す**創造**のスキルを持ちます。そして、自分の中に湧き起こった衝動に**応答**し、それを自分なりに独自のかたちで**表現**します。自分たちにとって何が重要なのかを示したり、新しい視点に対してオープンである**開放性**というスキルも含まれます。

【エビデンスを得るための方法】

具体的にエビデンスを得る方法として、1）個別（単一）の研究、2）メタ分析研究、3）『レビューのレビュー』アプローチ、の3種類があります。

個別研究の多くは、観察に基づくコホート研究です。コホートとは、同じ属性や外的条件におかれた集団のことで、例えばコホート研究では、一定の期間に生まれた子どもたちの集団（コホート）を何年も追跡して調査していきます。このような個別研究は、1つのスキルに焦点を合わせていることが多く、例えばあるコホート研究が【知性】に着目したとすると、研究者はそのコホートの知性がどのような水準にあるかを定期的に測定し、その子どもたちがどのような大人になっていくか（＝どのようなアウトカムにつながるか）を調査していきます。個別研究では、個人の様々なスキルがどのように組み合わさり、それがどのように影響を及ぼすのかを調べたものはとても少なく、複数のスキルが相互に影響し合う作用は見出しにくいのです。実際の人間のことを考えると、人は様々なスキルについて強みと弱みを持ち、人生においてはそれらの組み合わせにより幅広いアウトカムが生じます。ですから、1つのスキルだけを見ても分からないことが色々とあるわけです。しかし現状では、複数のスキルを組み合わせた研究はほとんどありません。

メタ分析研究は、複数の個別研究をレビュー（再検討・総括）するものです。メタ分析研究でも、多くが単一のスキルやアウトカムに焦点を合わせており、複数のスキルの組み合わせがアウトカムにどのような影響を及ぼすのかを調査したものは少ない状況です。また、メタ分析研究の多くは、強い特徴を持つ特定の集団に着目したものがとても多く、一般的な集団を対象とした研究が少ないという点で、研究対象に偏りが見られます。

『レビューのレビュー』アプローチでは、複数の個別研究やメタ分析研究で得られた情報を組み合わせて、相関関係（2つの要素の間に関係があるか）や因果関係（2つの要素の間に原因と結果の関係があるか）など様々な観点からエビデンスを要約します。OECDの研究では、この手法が用いられました。

（つづく）

（大阪府・ひかり幼稚園／平林祥）

地域で愛される園になるためのサポートブック

園のリーダーのために

保育ナビ

管理職向け月刊誌
定価：本体価格926円＋税
B5判　72ページ

2017年 9月号の主な内容

●大特集　園と保護者と地域がつながるためのマナーレッスン
スムーズな園運営には職場内の協力は欠かせず、また保護者や地域の方々との良好な関係が必要です。本特集では園にかかわるすべての人がつながるためのマナーについて考えます。

●組織の活性化は若手の成長がカギ！若手保育者の育成法　今月のテーマは「個性の活かし方」。普段は埋もれがちな教職員一人ひとりの個性を引き出し、得意分野の向上につなげ、園の保育力を高める原動力にしましょう。

●スピーチ道場 ～あなたの言葉で園をもっと輝かせよう！～　人の第一印象を決める笑顔。普段から笑顔を鍛え、スピーチの際には聴衆を味方にしましょう。具体例では「結婚式のスピーチ」をご紹介。

ISBN978-4-577-81414-7　789

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込6-14-9　http://www.froebel-kan.co.jp
ご注文・定期購読のお申し込みは03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの フレーベル館

はじめてみませんか
寄付金募集

寄付金募集の際には日本私立学校振興・共済事業団の

受配者指定寄付金制度

をご活用ください

受配者指定寄付金制度を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者（企業・法人）は法人税法上の優遇措置として**全額損金算入**することができます。

寄付金は私立学校の重要な収入源です！

ご利用には一定の要件があります
まずは、下記までお気軽にご相談ください

日本私立学校振興・共済事業団
助成部　寄付金課
〒102-8145
東京都千代田区富士見 1-10-12
TEL　**03-3230-7316 ～ 7318**
e:mail　kifukin@shigaku.go.jp
HP-URL　http://www.shigaku.go.jp/

※子ども子育て支援施設（学校法人が設置する幼保連携型認定こども園）支援のための寄付金もこちらの制度の対象となります

子どもの主体性と保育者の意図性のバランスについて

助言者　〇鈴木正敏（兵庫教育大学准教授）
発表者　〇森　陽一（認定子ども園立花愛の園幼稚園主任）
〇宮﨑英輔（認定こども園立花愛の園幼稚園）

企画趣旨

自園では一人ひとりの子どもが伸び伸びと自己を発揮し、その子らしい主体的な姿を目指している。指導計画や年間カリュキュラムを学期ごとに見直しながら日々の保育を取り組んでいる。より子ども達が主体的に取り組みたくなるような活動や環境構成について模索しているが日々の活動や行事の忙しさから、子ども達の主体性を十分に尊重出来ずに、保育者の主導性の強い関わりがあるように感じていた。そこで子どもの主体性と保育者の意図性のバランスをテーマに研究していった。

昨年度の取り組みを振り返って

今まで５歳児の２学期の秋の参観日の取り組みにおいて、ペープサート等の活動も子ども達を中心に取り組んできていたつもりであったが、取り組み日数の短さや出来栄えを気にする保育者の焦りから子どもの主体性は薄かった。昨年度、子ども達が自らで企画し運営し取り組んでいく『子ども劇場』を実践した。参観日をゴールとするのでは、なく参観日に取り組み過程を保護者に見てもらい、意見をもらい継続して活動を進め異年齢児に見てもらうことを新たな目標として取り組んできた。『子ども劇場』の取り組みを通じて、子ども達が自らで企画し活動する中で保育者が子どもを信じて待つことの難しさを感じるが、子どもが計画し取り組む姿は、今までの参観日の取り組みよりも伸び伸びとした子どもの姿があった。

今年度の取り組みの見直し

今年度は、昨年度の経験を活かし１学期から子ども達が主体的に取り組める活動を取り入れ、２、３学期以降の子ども達の新たな育ちを期待し『お泊り保育プロジェクト』を計画した。毎年、自園ではお泊り保育の１つのイベントで縁日遊びがある。保育者がお店屋さんを展開し、子ども達は客として参加していた。今年のプロジェクトとしては、１学期の大きな行事として毎年取り組んでいる『お泊り保育』にスポットライトを当て、子どもの姿にあった、子どもの主体性と保育者の意図性のバランスを意識した保育を実践していくことにした
子ども達が縁日遊びを企画し運営しよりお泊り保育に主体的な姿を期待した。

研究方法

《　大切にしたい事　》

① クラス全体で一つの大きな目標に向かいながらも、その中で小グループに分かれ役割分担ができ、一人ひとりが自分の力を発揮できる協同的な活動に。
② 保育者が極力介入せず、子どもを信じ、子どもの思いを大切に関わる事でより主体的な姿が現れる様に。（バランスを意識する）

実践までの弊害

『お泊り保育プロジェクト』を年長組担任の職員に提案するが、反対の声が多数であった。活動への見通しがもてない事と他の活動と並行して行う事が出来ない事が理由であった。話し合いを重ねていく中で、出来栄えや店の完成を気にしている様子や子ども達にどう関わっていいかわからない事が本心のように感じた。そこで、活動の見通しが持てる計画表や予想される子どもの姿を記載した指導計画案を提示した。また、活動や行事の見直し保育者にとっても無理のないカリキュラムの編成を行った。
そして『お泊り保育プロジェクト』が始動した。

実践事例

ステップ１
・子ども達が縁日遊びにイメージを持って活動に取り組めるように、今までお泊り保育で行ってきた縁日遊びを体験してもらった。（保育者からの提示）

ステップ２
・取り組み中、自然と子ども達から店員役を買って出る姿があり、それらを取り上げ振り返っていく内に子ども達から「自分たちも店をやりたい」という声があがった。（子ども達の主体性）

ステップ３
・そこから、各クラス自分達のクラスで何の店を展開するか話し合いが始まった。（子ども達の協同性）

職員間での共通理解

取り組み始めて２週間くらいの頃に職員間で話し合いをした。実際に各クラスを回り子どもの姿・クラスの状況・今後の予定・製作物等について意見交換を行った。しかし、そこには、方向性のズレがあった。子どもの思いや考えのない設定保育が多様化されているだけのクラスもあった。保育者の意図性が強くでていて子どもの思い・考えを受け入れているつもりだが、保育者の焦りから十分に受け入れられていなかった。
他クラスの取り組み状況を聞き、子どものアイディアを一緒に楽しむ話から、子どもとの関わりの違いや保育の方向性の違いを感じて子どもの主体性を考えながら取り組んでいった。

考察

１学期における子どもが中心となって取り組む活動としては、１つの事にクラスで同じ方向に向かいながら進めていけた事は大きな成果であったと感じる。

- 意外な子どもの予想以上の自己発揮
- 保護者と子どもの繋がり
- ただ発言していただけだったのが、友だちの意見に耳を傾ける姿等

その中で

- 子どもと保育者（大人）では楽しいと感じる視点に違いがあること
- 保育者間での子どもの主体性についての捉え方の違い
- 保育者自身が保育を楽しみ主体的に取り組む等の　新たな気付きがあった

子どもの主体性と自立性を育てるためには

① 保育者主導ではなく、子どもの内面を掘り起こす援助（応答的に）
② 子どもを信じて待つ勇気（保育者のおおらかさ）

また保育者意図性が強いと、子ども自身が困る・悩む経験が少なく考える必要性がでてこない。言われた事しか出来ない子どもがでてくるのではないかと感じた

今後の課題

・保護者への発信の在り方
クラス便りやドキュメントシートを活用し個人懇談での保護者への情報提供は、子どもと保護者の繋がりの場となるだけでなく、子どもの活動をより主体的に取り組むことを促進させた。（その日出た内容を保護者に相談し、次の日保護者と一緒に考え作った物を自信満々に持って来た。等）
・主体的な子どもの姿とは？に対する職員間での考えのズレがある。（そのズレが大切で話し合える要素ともなるが）漠然としたものではなく具体的な姿を伝え合い情報交換していく中で主体的な子どもの姿のイメージの共有化を図りたい。今回の取り組みから２学期以降の活動を更に見直しをしていき子どもの主体性と保育者の意図性のバランスを考えたい。

環境によって子どもは変わる

−コンゴ民主共和国私立Ａ小学校幼稚部における１年間の絵画実践を通じて−

○柴田　茂樹（健伸幼稚園　教諭　慶應義塾大学 SFC 研究所　上席所員）
　梨羽　ゆみ（健伸幼稚園　教頭）

【研究概要】

現在、幼児教育の教育的意義があるとされてきた活動のある部分において様々な懸念が高まっている。文部科学省体験活動の教育的意義における項目では「間接体験」や「擬似体験」の機会が圧倒的に多くなった今、子どもたちの成長にとって負の影響を及ぼしていることが懸念されている」と述べられている。
日々の保育現場の段階においても教育的意義ばかりが先行し「子どもたちの育ちにつながる取り組みとは何か」その活動の一つ一つの「本質」を理解せぬまま、無意識的に様々な活動を「こなしている」現状があるのではないかという疑問が生じた。
本保育実践では今から幼児教育を立ち上げる昭和戦後の時代のようなコンゴ民主共和国、私立A小学校幼稚部に舞台を移し、幼児教育の原点に戻り保育実践を通じて一つ一つの取り組みを検証した。幼児教育に関する知識も技術も何もない、全てが簡素で手探り状態の環境の中で、幼児教育を立ち上げる経験をするべく実際に１年間現地教員として勤めた。毎日の協働体制による保育実践を通じながら現地教員とカリキュラムを作成したケースタディの一部、絵画活動を抜粋し「環境による子どもの変容」という視点で言及していく。

【コンゴ民主共和国、教育の背景】

インフラ・経済・紛争問題等の命に直接関わる開発分野が優先課題として挙げられており、教育開発に取り組む以前の課題が多い。教育省は存在するものの公教育がうまく機能しておらず私立学校が主体となっている。また『利益＞教育内容』という経営主体の学校が多く、「おみやげ保育」「形で入って形で返す教育」といった目に見える成果主体の学校が多く見られる。

【保育手法】

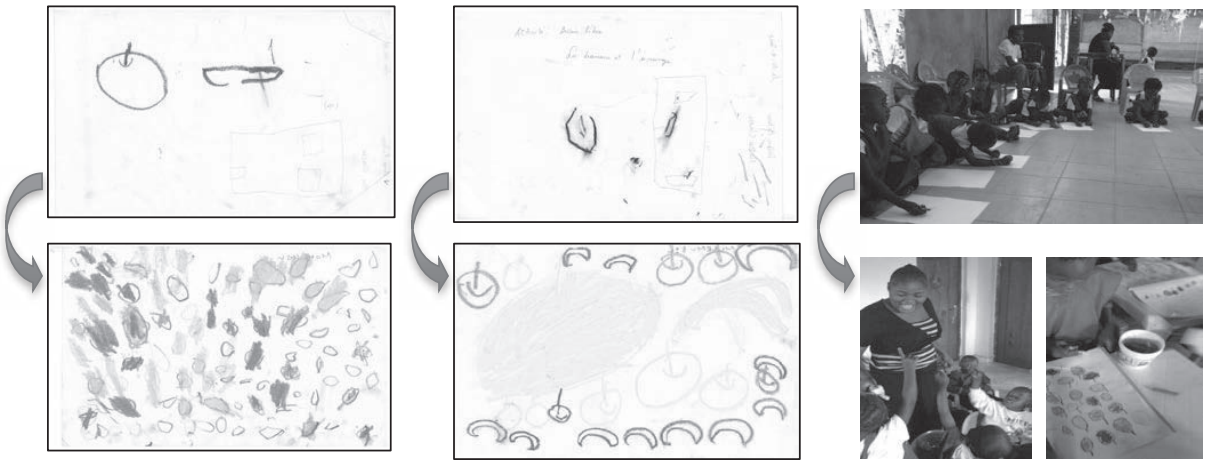
本保育実践では「教員そのものも子どもの育ちの変容に繋がる最大の一因であり、環境である」と捉えている事から「教員養成」という視点での取り組みも重視し、秋田（2005）の共同生成的アクションリサーチの展開モデルを採用した。同モデルは筆者と教員が繰り広げる協働授業の内容や教員自身の意識の内側にある問題に直接関与、その問題解決やそこに至るまでの意識の誘発、授業構築を図ることを可能にする最適な実践方法である。しかし、この手法は定型化された授業が習慣的に行われている事が前提としてあるため、教師の意思決定モデル（Wood,1996）を指針に付加した。

【普段の絵画活動から見られた、教室空間】

　活動中の子どものようすとして常に無表情、無気力であり絵画・製作活動において自ら表現する姿は皆無であった。以下、保育記録からの考察である。
①教員の子どもの接し方、活動展開、知識・技量不足によるものがまず大きい。
②活動自体に明確な目的やねらいがない。クレパスひとつにしても教員が適当に見繕った１色を配り、子ども達は絵を描く姿が見られた。
③教室空間が活動中の自由がない。コミュニケーションも許されない状況下、発想が生まれる余地がない。
④絵を描く目的が、家庭に持ち帰らせることにある。成果物の出来が、学校及び教員の評価に繋がる
　以上のことから絵画活動に対する認識が、教員が手を加えるものという認識にあり、その状況下子ども達が自由に表現する環境、つまり表現を楽しむことさえ許される環境にないことが分かった。

【協働保育第一回目】

初めてりんごとバナナを描いた時の様子・教師の姿
「自由に絵を描く楽しみを知ってほしい。そのための環境確保が第一歩」
今まで活動中は、子ども達の私語は基本禁止であった。絵画表現では、まず自由に絵を描く楽しみを感じる事が第一歩だと考え、子ども同士のコミュニケーションや会話は注意しないといった教員サイドの共通のねらいのもと活動を進めて行った。しかし、現地の先生が子ども達に求める絵の完成度と実際の子ども達の描く絵のクオリティに大きな違いが生じたり、子ども達のコミュニケーションが活発になり、教室が騒がしくなると以前のような叱咤と体罰が行われた。



１年の変容の様子（左：４歳児Ｓ　右：５歳児Ｍ　リンゴとバナナ）　（絵画中のようす）

【協働保育最終回】
最終日は教員が単独で授業を進めることになっていた。取り組みの前に、「導入に工夫を凝らす」「楽しい自由空間を演出する」「子ども達に愛情を持って接する」といったねらいが教員より提示された。本事例での導入では、りんごとバナナそのものの説明だけでなく、イメージが広がる様に触覚・味覚にも働きかけていた。教員が子ども達の描く絵に手を加えたり、注意をしたりする様子はなくなり、子ども達を傍観していた。その傍観の意味合いも以前とは異なり、笑顔で温かく見守り、コミュニケーションを図る子ども達に笑顔で対応する姿が見られた。

【最終回：ここまで変容した要因】
初回と比較し、絵が変容した要因としてまず１年間の積み重ねにより「表現を楽しむこと」を充分に感じる事ができるようになったことにある。保育室の環境や、子ども達同士の人間関係・・当初と何一つ変化はない中、唯一変容したのは教員が作り上げる①教室内の空気②表現することの限りない自由③描く過程における子ども同士のコミュニケーションを引き出せる環境構成④絵を描く過程における子ども同士のコミュニケーションの４点であった。この３点が変わるだけで絵は大きく変化したと言えるだろう。

【考察】
「絵画活動の本質は、自由に描く事を楽しむ気持ち」
子ども達は、最終回に教師が作り出した環境（教室空間）において、存分に絵画を楽しんでいるようすが見られた。教師の導入に際し、視覚や聴覚に働きかけるだけではなくりんごやバナナを実際に触り、味わう事で更に取り組み内容の理解を深めていた。最終日、真っ白な画用紙に０から絵を描くという初回以来の試みの中、子ども達は以前のように絵を描くことを戸惑い自分の行動に一つ一つ確認を求める姿は見られず、多種多様な色を用いてダイナミックに絵を描く姿が見られた。部屋の中を立ち歩き、遠くに座る子とコミュニケーションを図るといった子ども達の行き交う空間でも絵を描くといった目的は忘れず、終始絵を描くことを楽しんでいた。また、絵の時間を待ちわびていた子ども達は、机のセッティング、クレヨンの片付け等、手伝いを主体的に行う様子も見られる様になった。技術的にはまだまだ課題は残るが、本来の目的はそこではなく、「まず表現する楽しさを心から感じる」といった絵画実践の大きなねらいは充分に達成したのではないかと言えるだろう。

【提言　～表現教育の本質～】
表現教育は全ての子ども達一人ひとりの育ちを見極め、「彼、彼女はこの活動を通じて、どう自分を表現していくのか」という子ども達の最大限の自己成長を導きだす事をねらいとして実践されるべきである。
環境や子ども達は同一ではない。まず、子ども達を理解するための「子どもとの関わり、環境の考察」が表現において最も重要となる要素である。「表現充分に楽しめているのか」という視点で子ども達一人ひとりの特性を考慮した上で評価し、その表現を更に広がりを見せる為に初めて技術や知識を許容されるべきである。

（教員独自の工夫を凝らした導入）

園長・リーダー研修会小委員会の概要

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修専門委員
黒田秀樹（福岡県・きらきら星幼稚園）

これまで研究研修委員会は、全国の私立幼稚園・認定こども園のための研究・研修の基盤を築いてきました。教育・保育の「質」を高めていくために必要な研究・研修の課題を明らかにし、私たち自らが研究・研修を創り上げていけるような具体的な方向と方策を示してきました。とりわけ、それぞれの園の方針や特色を大切にしつつも、「公教育」としてのスタンスを失わず展開できていく研究・研修の在り方を模索してきたと言えます。

「園長・リーダー研修」については、四年ほど前から研究研修委員会で重点的な論点になっていたものです。それまで、もちろん、実際の教育・保育の内容や在り方について研究の課題を設けたり、研修会を開いていくことはおこなわれていましたが、園長等、園のリーダーの方々の「職能」にかかわる研究・研修を考えていく視点はあまりありませんでした。それには、理由がないわけではありません。「園長・リーダー研修」については、全日私幼連の経営委員会が主管する全国設置者・園長全国研修大会等を通して活発におこなわれていた経緯があります。それ以上に研究研修委員会として立ち上げるのは、

新しいものを見るたび、触れるたび、
目覚ましく成長する子どもたち。
子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。
育む環境で、子どもたちの明日は変わる。
だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。
好奇心や想像力、勇気や感動。
そして、子ども同士の関わり合い。
子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、
最良な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる
ジャクエツ

屋上屋を重ねることになる懸念もあったからです。

しかし、今、子ども子育て支援法に基づく施策が広がる中、確かな教育・保育の「質」を高めていくことが強く求められる時代となりました。そのためには、園の要となる園長・リーダーの見識、資質、能力を高めていく研修の機会を広汎に創っていくことこそ、先決の問題であるということは明らかなことでした。研究研修委員会としても、「園長・リーダー研修」を、あらためて広く深く考えていくことが当面の課題であるという結論になりました。

研究研修委員会で論議を重ね、研究研修委員会として新たに立ち上げていく「園長・リーダー研修会」の柱となるテーマ（目的）を決定しました。「保育を語れる園長・リーダーを育てる」というものです。「保育を語れること」は、簡単なようで難しいことです。つまり「保育を語れること」は、「保育が理解されること」「保育が伝わること」「保育が共感されること」につながらなければいけません。

園長・リーダーの能力は、まず、「保育を語れること」を通して、園の保育者、保護者、地域に園の保育が理解され、伝わり、そこにいる子どもたちが、その保育に共感する多くの人たちに見守られながら、園生活を送っていく場を創造していくことであると考えました。

■園長・リーダー研修会小委員会の立ち上げと役割

そんなテーマを基にして、具体的な「園長・リーダー研修会」の内容を、より詳しく具体的に組み立てる「小委員会」が立ちあげられました。研究研修委員会から５人ほどの委員が選出され、構成していく委員会です。まず、協議したことは研修内容です。３つの課題に分けて考え、詳しい研修内容を決定していきます。課題１「教育保育を創る」課題２「マネジメントを構築する」課題３「同僚性を深め保護者・地域・社会・行政と連携する」という分野になりました。平成二十七年度からスタートでき、文科省の協力もいただきながら、東大の秋田喜代美先生始め、聖心女子大学の河邉貴子先生、大妻女子大の岡健先生他多くのすばらしいご講師をお招きでき、テーマに添った研修が実現しています。本年度の「園長・リーダー研修」も計画しています。

保育力の向上のために　資質向上の取組の証明に

積極的に研修に参加し、その履歴を
研修ハンドブックに記録しておきましょう。

監修　公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

新版 研修ハンドブック

4103501　**756円**（本体 700 円）

●B6 判
●120 ページ
●ビニールカバー入り

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社　ワンダー事業本部
TEL03-3262-5128

新潟県からのおたより

保育者の資質向上を目指して

新潟県内の私立幼稚園で新制度へ移行した数は、施設型給付を受ける幼稚園を含めると約８割となっています。また、地域によっては幼保連携型の新設、保育所型認定こども園の認可が下りているところもあります。新制度へ移行するこの流れは今しばらく続くように思われます。

また、教育要領、保育指針等が新たに示されました。現在は、受け皿拡大から、質の確保、向上が求められています。新潟県私幼協会研究部では平成２８年度より事業を大きく見直しました。その中の一つとして、各園が研修・研究に取り組みやすいように、保育者一人ひとりの保育力のボトムアップにつながるようにと考え、教育研究委員会を立ち上げました。

各園から１名を教育研究委員として登録してもらい、７月に全員集合、趣旨説明、情報交換。冬期には県内４地区で、プチ発表会を計画しましたが、理解・周知に失敗。質問・疑問の雨あられ、すったもんだの平成２８年度でした。

今年はある程度、理解も得られ順調…？　これからのことになりますが、この事業が軌道に乗り、各園の保育者の皆さんが保育をする中で、なぜ？　どうして？　どうしたら？　といった疑問を持ち、それを解決するための研修・研究を肩肘張らずに、進めていけるツールとなるような委員会になることを願っています。

（（一社）新潟県私立幼稚園・認定こども園協会研究部長、新潟市・幼稚園型認定こども園曽野木まるみ幼稚園／丸山和幸）

高知県からのおたより

制度移行状況と、今後の取り組み

新制度３年目がスタートしました。ここ数年は、制度理解についての勉強会を進めてきましたが、自園の実情に合わせて具体的にイメージするという部分が、なかなか難しかったと感じます。それでも、本県では、昨年度から移行した園が多くあり、現在は県内２８園中移行した園が２４園です。この数字から新制度に期待する様子が伺えます。

移行した園では、月々の煩雑な事務作業と見通しが立たない状況にとても大変な一年を過ごしました。どちらかというと実際にやりながら理解していくという傾向があったように思われます。昨年度を終えてみて、収支が好調で安定した経営が確認でき、ようやく安心できたような状態です。そして、今度は処遇改善加算Ⅱが入ってきました。この加算については、今のところ、慎重な姿勢を示す園が多いようです。

そんな中、ECEQ を利用した第三者評価の実施を高知県で引き受けました。四国全体のコーディネーターの協力を得ながら、各ステップをよりよく進めていきたいと考えています。一方で、この評価活動を、公的な第三者評価として県市に認めてもらい加算にも繋がるよう交渉する予定です。

今回の公開保育を含む第三者評価の実施がきっかけとなり、全日私幼研究機構の研修ハンドブックの研修履歴が、来年度以降の処遇改善加算Ⅱに必要な研修実績として県から認められ、カウントされるようになることを、私たちは切望しています。

（高知県私立幼稚園連合会副会長、高知市・あたご幼稚園／野村貞夫）

編集後記

１９６７年（昭和４２年）に発売された着せ替え人形の「リカちゃん」が、今年で５０周年をむかえ、６千万体以上が販売されたといわれています。この背景にはメーカーの子どものニーズに合わせた市場調査と世間で流行しているものを直接体感できる商品開発が欠かせません。

「ごっこ遊び」を通じて、他者とのつながりや社会の基本的なルールを理解し、「リカちゃん」が憧れや夢を体現することで、子どもたちが自分の将来像を獲得するための手助けをしています。

家族構成はもちろんのこと、リカちゃんが住む家・家電・ファッションになど、半世紀に渡って様変わりしてきました。今年は「フランス観光親善大使」に就任、もはやおもちゃの枠を越えてタレントとして活躍しています。

少子高齢化を反映して、親子２世代３世代にわたって愛され続けているリカちゃんの 10 年 20 年 30 年後は・・・・幼稚園の将来と重ねてしまうのは私だけでしょうか。

（全日私幼研究機構副理事長・原徳明）

平成 29 年度（第 7 回）　免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
愛知県 名古屋市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の 4 つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は 11 月 18 日の選択必修講習と連続して行うものです。	上田　敏丈（名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授）	6 時間	平成 29 年 11 月 25 日	70 人	平 29-80012-100874 号
宮崎県 宮崎市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の 4 つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。本講習は、11 月 12 日の選択必修講習と連続して開催します。	立元　　真（宮崎大学教授）	6 時間	平成 29 年 11 月 11 日	120 人	平 29-80012-100875 号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
愛知県 名古屋市	「やわらかな人間関係づくり　―聴く技術を学ぶ―」教師には幼児との信頼関係を十分に築くことが求められる。そのためには幼児の思いを受けとめ、内面の理解を一層深める必要がある。また、保護者への対応の際にも、保護者の思いに耳を傾け、カウンセリング的な援助をする必要がある。聴く技術を学ぶことにより、幼児との暖かい関係を構築するとともに、保護者の思いに寄り添い子育ての支援に役立つ内容となることを目指す。なお、本講習は 11 月 25 日開催の必修講習と連続して行うものです。	齋藤　善郎（椙山女学園大学教育学部教授）	6 時間	平成 29 年 11 月 18 日	70 人	平 29-80012-301778 号
宮崎県 宮崎市	本講習は、幼稚園において発生する、貧困や不適切な養育、社会環境の変化などが起因して発生せる子どもの発達上の問題や発達障害に関する子どもの発達上の問題を中心的な課題とする。保育カンファレンス、ペアレント・トレーニング保護者との連携、小学校や特別支援学校との連携、他機関との連携などの手法を用いて、合理的かつ理性的な問題解決の方法を概観し、実践演習を交えて学習する。なお、本講習は 11 月 11 日に開催の必修講習と連続して行うものです。	立元　　真（宮崎大学教授）	6 時間	平成 29 年 11 月 12 日	120 人	平 29-80012-301779 号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
福岡県 福岡市	テーマ「子どもとつくる保育の理論と実際」乳幼児は、自分の声を聴き取られながら「自分」を形成していく存在です。そんな子どもたちの声にていねいに耳を傾け、その声を正当に評価しながらつくる保育が「子どもとつくる保育」です。子どもたちが園生活の主人公として活動する保育の姿を、具体的な実践事例を交えながら考えていく講習。	加藤　繁美（山梨大学教授）	6 時間	平成 29 年 10 月 28 日	100 人	平 29-80012-507818 号
東京都 新宿区	本講習では、幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じるため、2 人の専門家による講座を開設する。最新の専門的な知識・技能の習得と、今日的な幼稚園教育の課題についての理解を深めることを目指す。	岡　健（大妻女子大学教授） 平山　許江（青木幼児教育研究所、立正大学大学院非常勤講師）	6 時間	平成 29 年 11 月 23 日	150 人	平 29-80012-507819 号

大阪府 大阪市	本講習では、子どもたち一人ひとりがもつさまざまな「違い」に着目し、多様性が尊重されるクラス作りについて考えることを通して、共生の社会を実現できる力を子どもたちにいかに育んでいくのかを卜田先生と考えていきます。また、しょうがいや外国籍など複数の観点でマイノリティである子を、どう支援したらいいのでしょうか。難しい課題ですが、なるべくわかりあい、共に楽しい時間をすごすため、どうしたらいいのか、戸田先生と共に考えたいと思います。	卜田　真一郎（常磐会短期大学幼児教育科教授） 戸田　有一（大阪教育大学教育学部初等教育講座教授）	6 時間	平成 29 年 10 月 21 日	100 人	平 29-80012-507820 号
神奈川県 小田原市	『造形表現活動を通して培う力』幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。造形分野の観点から最近の知見を紹介するとともに、保育者が日常の保育の中で感じる造形指導上の悩みを解決できる場とする。	水野　道子（小田原短期大学保育学科特任講師） 尾野明美 (小田原短期大学保育学科准教授)	6 時間	平成 29 年 11 月 11 日	200 人	平 29-80012-507821 号
神奈川県 小田原市	『人間発達の理論に学ぶ　― 個人・集団・社会 ―』各種の発達理論と目前の子どもの発達の事実を、どのように結びつけ指導に生かすのか。誕生から成人までの発達の道すじを俯瞰し、人間発達のダイナミックな構造に迫ることで、改めて乳幼児期の課題とは何かを考える。	小倉直子（小田原短期大学 保育学科 特任講師） 馬見塚昭久 (小田原短期大学保育学科講師)	6 時間	平成 29 年 10 月 29 日	200 人	平 29-80012-507822 号
神奈川県 小田原市	『子どものための環境作りをともに考える』これまで私たち幼稚園教諭が子どもたちのためと思って整えてきた環境は…子どもにとってもそう感じることのできるものだったでしょうか？子どもにとって本当に必要な環境とは何か一緒に考えていきましょう。	野津直樹（小田原短期大学保育学科准教授） 望月たけ美（小田原短期大学保育学科専任講師）	6 時間	平成 29 年 10 月 28 日	200 人	平 29-80012-507823 号
神奈川県 川崎市	＜からだ遊びで発達を促す＞人との触れ合い遊びの中で促される発達要素に着目して、その方法と利点について考えてまいります。＜日本の伝統音楽・文化を子どもたちに伝えよう＞自然の中にある音素材を使ったグループ活動を通して実践的に講座を進めていきます。＜子どもの言葉の発達と、発達に即した視聴覚素材＞乳幼児の言葉の発達を踏まえながら視聴覚教材を活かした保育の実践方法（紙芝居、絵本など）をもとに講義する。	石濱加奈子 (洗足こども短期大学幼児教育保育科准教授) 長谷川真由 (洗足学園音楽大学音楽学科講師) 並木真理子 (洗足こども短期大学幼児教育保育科准教授)	6 時間	平成 29 年 9 月 20 日、 平成 29 年 10 月 18 日、 平成 29 年 11 月 15 日	100 人	平 29-80012-507824 号
山形県 山形市	本講習は、保育者としての専門性を高めることを目的とし、幼児理解・保育の振り返り・遊びの充実について学び、幼児教育の要について認識を深めるものである。また、保護者への対応として、保護者との向き合い方についても学ぶものである。	高橋　栄美子 (認定こども園さゆり幼稚園園長 , 東北文教大学短期大学部非常勤講師)	6 時間	平成 29 年 11 月 5 日	50 人	平 29-80012-507825 号
山形県 山形市	本講習は、保育者としての専門性を高めることを目的とし、特別支援教育について理解を深めるため、障がいの基礎知識を確認し、保育環境の構成における必要な配慮などについて学ぶものである。	花輪　敏男 (東北文教大学非常勤講師, FR 教育臨床研究所所長)	6 時間	平成 29 年 11 月 4 日	50 人	平 29-80012-507826 号
山形県 山形市	本講習は、保育者としての専門性を高めることを目的とし、子どもの育ちの変容について理解を深め、保護者や小学校、関係機関と連携した子どもに寄り添った対応について学び、子育て支援実践のための知識や技能を高めることを目指すものである。	永盛　善博 (東北文教大学准教授)	6 時間	平成 29 年 11 月 3 日	50 人	平 29-80012-507827 号
香川県 高松市	本講習では、資質・能力の３本の柱における育ちを見通した教育・保育について、幼児の自発的な活動としての遊びにおける総合的な指導のあり方を、実践を振り返りながら具体的に深めていく。また、幼稚園教育要領の改訂により示される『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』と小学校との円滑な接続をテーマに、入園から就学までの幼稚園での育ちにおける大切な視点について学ぶ。	神長美津子 (國學院大學教授) 片岡元子 (香川大学准教授)	6 時間	平成 29 年 10 月 26 日	35 人	平 29-80012-507828 号
愛知県 名古屋市	この講習では、障がい児を含めた保育について、障がいの特性の理解、保育上の留意すべき点、保護者への対応、専門機関との連携、小学校との連携、特別支援教育の理解などを中心に学んでいく。	川瀬　正裕 (金城学院大学人間科学部教授)	6 時間	平成 29 年 12 月 2 日	70 人	平 29-80012-507829 号

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットの
GPS 機能を活用したシステムで、
バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を
提供するクラウド型サービスです。

株式会社 チャイルド社 インターネット課
TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス　http://www.child.co.jp/